SHINRAN 750th

「いただこう　あわせる　掌のぬくもりを」

御遠忌通信

第８号

あかり　とも

発行日　2018年12月1日
責任者　宮尾　隆造
編　集　御遠忌実行委員会
連絡先　長浜教務所

〒526-0059
長浜市元浜町32番4号

TEL　0749-62-0737
FAX　0749-62-0754

巻頭言

長い歴史の中で

教区会副議長　美濃部　俊裕

来年五月の教区御遠忌を目前に控え、十一月一日、今年の五村別院報恩講に鍵役能慈院殿がおこしになり御参修による厳修をいたしました。次期門首後継者にお参りいただいたことで、いつにも増して高揚した雰囲気の中で結願日中が勤まりました。

昭和三十六年の本山宗祖親鸞聖人七百回御遠忌法要を機として、翌年に始まったのが真宗同朋会運動です。訓覇信雄宗務総長によって提唱された同朋会運動は、信仰を単に個人の問題としてではなく、一人ひとりがどういう関係性を生きるのかという共同体の回復を願うものでした。

長浜教区でも同朋会運動が展開され、私のお寺でも、祖父が毎月二十七日の夜に仏教婦人会を開いていました。そこでは20人くらいの女性が集まり、お勤めの後、祖母のオルガン伴奏で仏教讃歌を歌ったりお話を聞いたりしていました。小学生の私はそれを見て育ち、正信偈やいくつかの讃歌を覚えたと記憶しています。

その後、昭和五十四年に長浜・五村両別院離脱問題が起こり、この苦難を僧侶と門徒がそれこそ手を携えて乗り越えました。この経験も踏まえ、真の同朋教団の確立を目指す取り組みとして、『寺の役員の公選制』と『月例役員会の開催』を推し進め、更に「教区指定同朋の会事業」が始まりました。『同朋会の開設と充実』をスローガンに、すべてのお寺で同朋会が開催されることを目指しました。毎年、全組において1ヵ寺が指定され教導と補導が派遣されました。一年間にわたる毎月の同朋会と本廟奉仕が実施されました。同朋会がすべてのお寺に定着したわけではありませんが、先輩に混じって事業に参加させていただいた私には、教区が一つの方向に向いて動いていく勢いがあったように感じられました。

その後、本山事業の推進員養成講座が始まり、教区指定同朋の会の事業は休止されていましたが、四年前から再び、新たな形で「教区指定同朋の会の事業」が実施されています。

長浜教区は、同朋会と日曜学校の開設率は全教区の中で抜きん出ており、他教区にはない形で婦人会活動も実施されてきました。これは、小戸数の村でも真宗大谷派の寺があることも大きいでしょうが、長い歴史の中で地域の人々の心と体に染みついた、何か大切な精神文化による土徳の影響が大きいと思います。

しかし、現状は若い人が地元を離れたり、子どもの数が極端に減少しており、伝統や慣習を継承しにくい状況になっています。他の地域がどうなっていくかはわかりませんが、私たち湖北にせっかくここまで伝わってきた教えを私自身がいただき直して、次の世代に伝承していきたいものだと思っています。そのためには、住職の思いや、今までのやり方に固執しないように心がけ、門徒さん・参加者側のニーズをしっかりつかんで、行事の内容や方法、教区や組のあり方、近隣のお寺同士の協力などについて再考してみることが必要だと考えています。

この度の教区・両別院の御遠忌は、僧侶と門徒が共に知恵を出し合い、これからみんなが進む方向を見つけるものにしなければならないと思っています。

御遠忌テーマ　「今、いのちがあなたを生きている」
御遠忌スローガン　「いただこう　あわせる　掌のぬくもりを」

両別院報恩講

長浜別院・五村別院　報恩講厳修

〇十月二十二日～二十五日（長浜別院）十月二十九日～十一月一日（五村別院）　各日の様子

音楽法要

本堂内

供灯・供花

御伝鈔拝読

御遠忌
ごきげん
ワークショップ

「ひとつばたご」によるお琴の演奏会が行われました。

「坊守会」によるいとこ煮風とうふ白玉のふるまいがありました。

「御遠忌　ごきげん　ワークショップ」は御遠忌の趣旨に賛同の上、様々な活動を企画し実施いただく団体を募集しました。応募団体の中から選考の上、一定の助成をするもので、助成対象となる事業は御遠忌の願い「生きる力を伝える」に則した多様な活動を行っていきます。
「御遠忌　ごきげん　ワークショップ」を契機として、真宗門徒の皆さんはもとより、宗派を越えて地域の方々との交流を深めてまいりましょう。

書籍と震災グッズ販売

五村別院結願日中を門首後継者
「大谷暢裕師（能慈院殿）」御参修にて厳修

長浜教区・五村別院・長浜別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要
«五村別院　2019年5月10日（金）～12日（日）»
«長浜別院　2019年5月17日（金）～19日（日）»

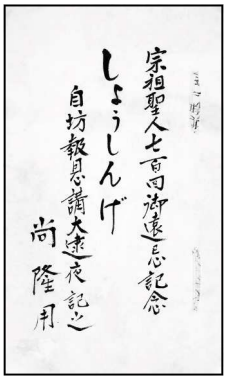
1255年（83歳）　親鸞、『愚禿鈔』を書く。
1255年（83歳）　親鸞、笠間の念仏者の疑問に答え、自力他力について教示。

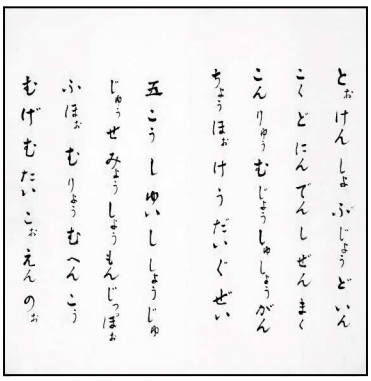
各組からの声

御遠忌をお迎えする歓び　～法義相続への篤い思い～

第22組　西慶寺住職　佐々木　尚隆

私が、大切に保存している「正信偈」勤行本があります。それは、十数年前に書架を整理していた時に、偶然見つけたものです。見つけたというよりむしろ、半世紀ぶりに再会・出遇わせていただき、手に取ることができた勤行本です。





その時まで、私は、その「正信偈」勤行本の存在をすっかり忘れていました。私の手垢がしみ込み、使い込んでいるのにもかかわらず、それを使わせていただいていたことさえも、記憶からすっかり消えていたのです。

その勤行本は、拙寺前々住職、私からすれば祖父が、和紙を紙縒で綴じ、毛筆で書いた手づくりのものです。

表紙には、「宗祖聖人七百回御遠忌記念　しょうしんげ　自坊報恩講大逮夜記之　尚隆用」と書かれています。尚隆とは私のことです。

私が6歳の頃に祖父からいただいたものであり、開けてみますと「とおけんしょうぶ　じょうど　いん　・・・」と小学校に入るか否かの私が読みやすいようにと、発音ルビ調で私のために一文字一文字、毛筆で丁寧に書いてくれた手づくりのものです。（写真参照）

この1冊の「正信偈」勤行本を手にするたびに、当寺の住職の「御遠忌」をお迎えする溢れんばかりの歓びと親鸞聖人のみ教え・ご恩相続への篤い思いが、ひしひしと伝わり、自然と手が合わさり、頭が下がってまいります。

ものごころつくか、つかない頃より、親鸞聖人のみ教えに知らず知らずのうちに、何とはなしにふれさせていただき、多くのご縁によりお育てにあずかり今の私があることに、感謝させていただいているところです。

いよいよ、来春、両別院御遠忌法要が厳修されます。祖父が私にしてくれたように孫にも、そして、多くのご門徒のみな様と共に御遠忌をお迎えいたし、その勝縁を喜びあいたいと心より願っております。

現在、その「正信偈」勤行本は、先達の方のご法義相続への篤い思いと願いを、いつまでも忘れないために、仙台堆朱（せんだいついしゅ）の文箱に大切に保管しております。

「恥ずべし　傷むべし」

第22組　慈榮寺住職　藤谷　秀樹

七年前の本山での宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要は、東日本大震災の発生を受け、第1期法要を中止して「被災者支援のつどい」として開催されました。七百回御遠忌は祖父が、蓮如上人五百回御遠忌は父がお参りしたので、今度は私の順番だと軽く思っていました。

しかし、大震災による法要中止ということを通して、御遠忌の基本理念「宗祖としての親鸞聖人に遇う」とはどういう事なのかを改めて考えてみました。私はそれまで親鸞聖人は、とても偉くて、金剛のような堅い心を持っておられるすごい方だと外見的な面からしか見ていなかったのではないかと思いました。聖人が生きてこられた時代背景や、どうして『教行信証』を書かれたのかなどを考えてもみませんでした。

時代背景としては、源平の戦いの真っただ中で、全国で戦乱が起こっていました。また、鴨長明の『方丈記』によると、聖人が4歳の時に大火で京都の3分の1が消失し、7歳の時に竜巻がおこり、9才の時に飢饉で京都で4万人以上の人がなくなり、12才で地震に

〈裏面に続く〉

1255年（83歳）　親鸞、『皇太子聖徳奉讃』を作る。
親鸞、火災にあう。
朝円、親鸞の絵像（安城御影）を画く。

遭いました。天災や飢饉また戦さが相次いで起こった時代に、聖人は幼少期を過ごされました。きっと苦しんでいる人々を見ながら、無常ということを実感して成長されたのだろうと思いました。

『教行信証』は、承元の法難で念仏停止となり、流罪とならた法然上人の教えの正しさを証明するために、聖人が一生をかけて著述されたのです。正式に反論するために、多くのお経や論を引用して漢文で書かれたことを初めて知りました。

『教行信証』に次のような内容の一節があります。「悲しいことに、私親鸞は、自分勝手な愛情や欲望にどっぷりつかり、様々な欲望をいつまでも追い求める深い山に迷いこんでいる。そして、如来の教えに帰依し、必ず往生が定まっている人の仲間入りすることを少しも喜べない人間である。恥ずかしいことであり、悲しいことである。（聖典251頁）」とこのように自ら語っておられるのです。

とても偉い方だと思っていた聖人は、決して自分は覚った立派な人間と語っておられないのです。実に人間味のある方なんだと感じました。

今回の両別院の御遠忌を通して、親鸞聖人と真向かいになって出遇わなければと思っています。

Facebook始めました！

Ｆａｃｅｂｏｏｋでも御遠忌の様々な取り組みを紹介いたしております。

「長浜別院（大通寺）／五村別院」

と検索ください。

御遠忌ごきげんワークショップ

ごきげんワークショップ開催案内・報告

○地域お宝ほりおこし隊

日時　十二月二日（日）十一時

会場　浄教寺（高月町東阿閉）

内容　真宗門徒ものがたり、お宝をたずねて。映像を通して真宗の教えを分かりやすく伝える。

○親鸞さまと今福寺の時代（第5回）

日時　三月十七日（日）十三時半

会場　稱揚寺（米原市番場）

講演　「十五世紀～十六世紀における番場の歴史的景観と今福寺跡」

講師　丸山　竜平　氏（元名古屋女子大学教授）

○横超楽園（ランド）（第二衆会）

日時　三月二十四日（日）十三時半

会場　西徳寺（敦賀市疋田）

講演　「日本の近代化と国家（人々）の行方」

講師　長田　浩昭　氏（京都教区法傳寺住職）

第３回目の様子

第４回目の様子

第一衆会の様子

○打敷の会

手刺繍による打敷の新調・修復を行い五村別院に寄進します。

教区内の皆様より掲載記事を広く募集しています。教務所（担当　内麻）までご一報いただければ取材に伺います。